

防災だより

12月号

発行 加古川グリーンシティ防災会 〒675-0063 兵庫県加古川市加古川町平野 24-1 電話(079)425-6852 www.greencity.gr.jp

「もしもガイド」を解説

大地震が発生！その時「あわてず、落ち着いた行動」が重要です。今回は**地震発生時の基本となる行動指針**をお伝えします。あくまでもパターンのひとつなので、実際の災害時は状況に応じて対応しましょう。

① 緊急地震速報が流れた！

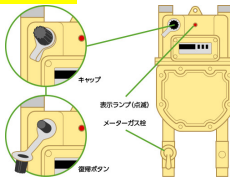
強い揺れに襲われるまで、数秒から数十秒あります。住居内にいる場合は、家族で決めている**絶対的安心場所**へ移動します。しかし、直下型地震の場合、緊急地震速報は間に合わず、遅れて報知されるので注意！

② 自分と自分の大切な人の安全確保！

大きな揺れを感じたら、自分の身を守る行動を最優先にします。「**地震がくるぞ**」家族や周りの人に判るよう大声で**絶対的安心場所**へ移動しましょう。転倒の恐れがあるので、移動後は身を低くして頭を守ります。エントランスや建物近くにいた場合は、窓ガラスが降ってくる可能性があるため建物から離れてください。**※車が多く走る道路側に避難する場合、周囲の状況を確認しながら避難行動をとる必要があります。建物内に逃げ込んだ方が安全な場合もあります。**

③ 揺れがおさまったら、火の元の確認！

震度5相当以上の揺れの場合は、マイコンメーターが動き、ガスの供給を自動的に遮断します。揺れを感じ、あわてて火を消そうとして大火傷する場合がありますので、揺れがおさまってからコンロを「消す」にしましょう。



④ 避難路の確保！

揺れがおさまってから、玄関や窓を開けましょう。



⑤ ライフラインの安全対応！

電気のブレーカーを落とします。ガスや水道の元栓も閉じます。ガスの臭いがしたときは、窓を開けて換気しましょう。電気・水道・ガスは安全確認ができるまで使用を控えることが重要です。

大きな揺れを感じたときは、管理組合からの排水管の状況確認完了までトイレはできる限り使用せず簡易トイレで対応することを心掛けてください。

⑥ 家族の安否確認！

災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話各社の「災害用伝言板」、LINE・Facebook・TwitterなどのSNSを利用しましょう。ただし、通常の電話回線は混み合うので利用を控えてください。

⑦ 情報の収集！

あせらず「正しい情報」の収集に心がけましょう

⑧ 玄関ドア外に安否確認マグネットシートで表示！

揺れがおさまった時点で「在宅」「在宅傷病者あり」「避難済」を貼りましょう。

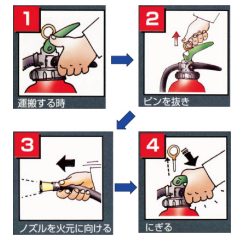


⑨ 救助要請あり！

救助の求めがある場合、要救助者宅を特定し救助要請や救助方法を考えましょう。

⑩ 火災発生！

火災発生の場合、消火を優先しますが屋内消火栓が起動しない可能性もあるので、消火器や消火剤で初期消火をしましょう。



⑪ マンションの情報を入手！

各階エレベーターホール、各棟1階エントランスホール、管理事務所前に集まり情報を入手しましょう。インターホンでご近所さんの安否も確認しましょう。

⑫ 在宅避難または避難所への移動！

可能な限り住み慣れた自宅での生活を確保することが基本です。判断としては、建物の構造に深刻な被害が生じた場合、自宅での生活をあきらめ避難所へ避難をします。避難をする場合は、玄関ドア外に「避難済」マグネットシートを忘れずに貼りましょう。

⑬ 管理組合の理事を緊急招集！

建物の損傷把握に管理組合理事を緊急招集しましょう！その際、マンションの状況を確認しながら、管理事務所に向かいましょう。管理会社とも連携し被害状況を把握しましょう。



⑭ 自治会の役員を緊急招集！

民生委員さんと協力し、要援護者を把握し確認しましょう。

⑮ 不安やイラだっていても怒鳴らない！

その場で対応している全員が、**あなたと同じ被災者であることを忘れてはいけません！**あなたの身勝手な行動や言動が、マンション全体の復旧を遅らせます。もし不安なら「お手伝いをしましょう」。手伝うことで情報の入手が早くなります。

⑯ 防犯が手薄！

災害発生時こそ、声掛けや挨拶が重要です！お互いに声を掛けあい、安全安心をみんなで確保しましょう。

⑰ できることをやる！

あなたにできることは「**あなたにしか判りません**」。あなたにできることを探しましょう。**災害発生時は「お互いさま」を忘れずに行動することが重要です！**

マンションいい話コンテスト 準グランプリ授賞 賞金10万円獲得

準グランプリ

『コミュニティこそがライフライン』

大西 賞典 様 / 兵庫県加古川市

「防災をひと言で言うと何ですか？」と聞かれたら、あなたはなんと答えますか？

私は『自分の大切な人を守ること』だと自信を持って言います。

1995年1月17日午前5時46分52秒。私たちは今までに経験したことのない強く大きな揺れに襲われました。

阪神・淡路大震災です。

震源地から25km。私の自宅は、家財道具はメチャクチャになりましたが、幸い家族は全員無事でした。マンションは、地震による人的被害は無かったものの、階段接合部破断で階段の使用不可や壁面にX状の亀裂が無数に入るなど3000万円程度の被害が発生しました。

さらに、マンション住民の多くは阪神間に通勤しており、震災直後は、在来線が地震の影響で不通、普段は神戸まで40分程度の通勤時間が、震災後には3時間以上の通勤時間を要することになりました。余震の続く中、家族をマンションに残したまま単身で職場の寮や親戚先などから通勤するといった、多くの人が強い不安を感じながら日々過ごしました。

そのような状況下、マンション住民の間では「マンションを守ろう」「何かを始めなければ」という意識が高まってきました。被災後の救援や復旧活動におけるボランティアの高まりを受けた兵庫県では、県下に自主防災組織の結成を呼びかけました。加古川グリーンシティ管理組合もこの呼びかけに答え、平成10年6月、既存の自衛消防隊と防犯防災委員会を融合させた「加古川グリーンシティ防災会」を発足させたのです。

防災会発足当初は、震災後にクローズアップされた「マンションの災害対策」について取り組みました。

マンションはプライバシーが守られる反面、ご近所付き合いが薄いのが最大の問題。この問題をいかに解決し、どうすれば仲間が増え、みんなが防災活動に取り組むことができるようになるのかを思案したのです。

そこで考えだしたのが、楽しくなければ防災の輪は

広がらない、『楽しく防災活動をやろう』というスローガンでした。このスローガンを掲げ、災害などの緊急時に提供可能な能力を事前に登録し、災害発生後にいち早く適切な人材からアドバイスが頂ける特技登録制度「町内チャンピオンマップ」や、災害後に大きな不安を抱える高齢の人や障がいのある人の登録「ひとこえ掛けて」など、災害時だけではなく、普段の生活の中に防災をうまく組み込む「生活防災」というアイデアを仕掛け、「コミュニティづくり」に邁進しました。

ところが、勢いづいた防災活動も年月が過ぎるほどに、「もう地震なんて来ないんじゃないのか？」「なぜ私が近所の人や命や何処の誰か判らない人の命まで守るような活動をしなければならないのだ！」と思う人が増えてきたのです。

そのような中で、ある小学生から次のような質問を受けました。

『防災をひと言でいうとなんですか？』

想像すらしていなかった質問でした。私たちにとって防災とは、防災でしかなかったからです。この小学生の質問が、後に大きな宝物となりました。

私たちは今まで『防災』というものをしっかりと定義していなかったのではないかと思い始めたのです。「命を守ろう」「まちを守ろう」という漠然とした活動では、モチベーションが続かなくて当たり前だったのです。

私たちの防災活動は、マンションのハード的災害対策だけではなく、「防災活動」とは本来どうあるべきか、そもそも「防災」とは何か、「何に対して」防災をするのか、私たちは「何を守る」ために防災活動を行うのかなど、「防災」が持つ本来の意味を、原点に戻って追求しました。しかし、中々答えを見出すことができませんでした。

そんな時、家内から「あなたは何のために防災活動をしているの？」と聞かれました。

何のために防災活動をしているのか。答えはすぐに浮かびました。「私の大切な家族の命を守るために防災活動をしている。家族の命を守りぬくために私も死なない！」

私自身「他人の命を守る、マンションを守る」なんて、到底できもしないことをやろうとしていたのではないかと、単純に『正義の味方づら』をしていただけだったのではないかと気づいたのです。

「定義のない防災活動では、人は迷うだけ。そうだ！『防災とは自分の大切な人を守ること』なんだ。自分の大切な人を守る為に、まちづくりをみんなで楽しくやろう」と考えたのです。他の人を守ることが廻り廻って「自分の大切な人を守ることに繋がる」と。これまでの「大切な人」というような漠然とした守る対

象ではなく、「自分の大切な人」と守る対象を定義することが重要だと気づき、住民に「コミュニティの強化」を啓発したのです。

あの小学生の質問に、迷わず答えることができる私には「防災とは自分の大切な人を守ること」が一番であって二番なんて無い、誰に何を言われようとも心が揺らぐことはありません。ですが最初は、専門家の方々から「防災とは自分の大切な人を守ること？そんなあまっちょろいこと」と笑い飛ばされもしました。

2011年3月11日。東日本大震災。

テレビで専門家の先生方が、声を揃えて仰っているのを見て涙が溢れました。「防災とは自分の大切な人を守ること。あなたの大切な人を守る防災活動しましょう」と。防災会では『コミュニティこそがライフライン』だと思っています。あの震災から23年『楽しく防災活動をやろう』を今も変わらず実行しています。

近年、防災会では園芸部やゴルフ部も発足し、笑顔あふれる防災活動が広がりを見せています。私たちのマンションで「防災訓練やっていますか？」と尋ねると、多くの住民は次のように答えるでしょう。

「毎日やっていますよ」それは『あいさつ』です。私たちのマンションでは、毎日あいさつが飛び交っています。今日のこのあいさつが、自分や、自分の大切な人を守ることにつながるかもしれないからです。あいさつが地域の人を守り、更には自分の家族をも守る。こんな素晴らしいワクワクする究極の防災活動『あいさつ』が、私たちのマンションには文化として根付いたのです。

防災は、災害を防ぐためだけに行うものではありません。あなたが今何気なく行ったことが、あなたの大切な人の命を守ることになるのです。

(以上、原文のまま掲載)

【講評】

「防災」というキーワード。頻繁に耳にするし、大事なテーマだと誰もが思っているはず。

しかし、「防災とは何か？」「何のために防災活動をするのか？」そんな根本的な問いに対してどう答えるか、迷うこともあるかもしれない。

阪神・淡路大震災で被災したこのマンションでも、経年とともに徐々に防災意識が薄れていく。そんな時、ある小学生の問いをきっかけに、『防災とは自分の大切な人を守ること』なのだと気づかされる。

『楽しい防災活動をやろう！』というスローガンは、震災から23年経った今でも取り組みが続けられている秘訣であり、そして何より、防災とは特別なことではなくて、毎日の『あいさつ』からできることなのだ、防災の原点を改めて考えさせられるエピソードとして高い評価につながりました。

【授賞にあたり】

心の温まる記事が多い中で私共の原稿を選んでくださり、心より感謝申し上げます！また、日頃からグリーンシティにおける管理組合活動・自治会活動・防災会活動にボランティアでご協力頂いている方々にも、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私事ですか、私は文章を書くことが子どもの頃から嫌いで、作文は脂汗がでるほどイヤなものでした。

グリーンシティで20年という歲月、色々な文章を書かせて頂くにあたり、悩んだ時期もありました。

しかし、防災活動で進めている中で、出会った先生方や各種専門家の方々に「伝えたいことを書けばいい。動詞、接続詞、形容詞、名詞、助動詞等々、そんなものにこだわるから人に伝えられないのだ。あなたの言葉で書けばいい」「接続詞がどうの、言い回しがどうの。『そんな重箱の隅を突くイヤらしい読み手にあなたがなるな！』。そうすれば書きたい言葉は降り注いでくる」とみなさん同じことを仰ってくださいました。(これは作文嫌いの子どもたちに伝えたいです)

ふと気が付きました。

「他人がどう思うか？他者がどう評価するのか？」

こんなバカげたことに時間を割いていた自分に気づいたのです。想いを書けばいいんです。

でも、心が安定しないと文章を書くことはできません。特に昨年年末からグリーンだよりへの記事投稿も辛く苦しく感じ「書いても意味がないか？」とすら思えた時期もありました。この一年間、本当に地域の多くの方に支えていただきました。感謝しかありません。

そのような中で、ご無理をお願いし防災会の記事をグリーンだよりから「卒業」させて頂き、防災だよりとして単独発行させて頂くことになりました。

なぜそのように考えたかということ、防災会の記事は3人で見直していますが、本当に下手くそです。でも、下手な言葉でもそのまま伝えたいのです。形が変われば、もう私達の言葉ではありません。素晴らしく綺麗な姿に変えられたものは「つくろっただけ、見せかけだけのものになってしまう」と感じたからなのです。

加古川グリーンシティ防災会は、他の自主防災組織のように防災専門の先生の監修も受けず、行政のチカラもお借りすることもせず、自分たちで作りあげている組織です。泥臭くカッコも付けず、自分たちでいちから防災を学び取り、それらを包み隠さず本音で伝える活動でありたいと考えたからなのです。

だから、今回の授賞原稿に関しても、批判はお受けいたします。何てたって、人の想いはみんな違うのですからね(笑)。

獲得の賞金10万円どんな防災備品にしましょうか？ワクワクしますね。さて、あなたも賞金獲得にむけて次回投稿してみてもは如何でしょうか？